

自己評価報告書

平成23年 5月23日現在

機関番号：14501

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2012

課題番号：20360272

研究課題名（和文）ジャワ島中部地震における住宅復興の類型と効果

研究課題名（英文）A study on housing reconstruction process of Central Java Island earthquake

研究代表者

塩崎賢明（SHIOZAKI YOSHIMITSU）

神戸大学・大学院工学研究科・教授

研究者番号：20127369

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・都市計画・建築計画

キーワード：ジャワ島中部地震、住宅復興、ドーム住宅、コアハウス

1. 研究計画の概要

コミュニティ保全を重視した住宅復興という観点からみたとき、2006年ジャワ島中部地震の住宅復興はさまざまな示唆を含んでいる。注目すべき点は、住宅復興が地域ごとに、従前のコミュニティや仕事を確保しながら、被災者自身の参加と大学や国内外の非営利組織（NPO）の支援によって進められていることである。

ジャワ島中部地震での住宅復興には概ね以下の4つの類型がある。

- ①コアハウス方式の住宅復興
- ②NGOの直接供給による住宅復興
- ③自力再建を主体とする住宅復興
- ④密集市街地における住宅復興焦点

本研究ではこれらについて継続的に調査し、その特徴と効果を明らかにするものである。

2. 研究の進捗状況

（1）インドネシア・ジョグジャカルタ市を中心とする被災地において、初期の建設実態のみならず、復興住宅における生活過程の調査をも視野に入れ、5年間にわたる研究を行

う。

（2）上記の4タイプに対応する調査対象地は①ゲドンガン、ケボンアグン、②レペン、ケダトン、バンツール県各地、③クレロハルジョ、④コタケデである。

これまでにこれらすべての対象地域について、少なくとも1回の現地調査を行なっている。カソンガン、レペン、コタケデについては2回ないし3回の現地調査を行なっている。

（3）コアハウス方式をとっているゲドンガン地区では当初の小規模な住宅建設の実態調査に加えて、建設後1～2年を経たからの増築の実態についても調査し、住宅復興がより充実したものとなっていることが明らかとなった。また、同様の方式をとったケボンアグン地区との相違点については、協力関係にあるガジャマダ大学のイカプトラ教授の研究により明らかとなった。

（4）NPOの直接供給による住宅復興の典型として、ドーム住宅を取り上げ、71戸の団地を形成したレペン村と個別分散型の供給を行なっているバンツール県の各村を対象とした。レペン村のドーム住宅は初期の建設

実態と、その後の増築、外部空間の使いこなしの様態などを克明に調査した。また、住民に対する個別のインタビュー調査、実測調査により詳細なデータを収集している。

(5) 自力再建のクレロハルジョ村はこれまでに1回現地調査を行なった。

(6) 密集市街地のコタケデは、地区内に様々な地区性を持つ被災住宅地があり、これまでに2回の調査をおこなった。

3. 現在までの達成度

おおむね順調に進展している。

(理由)

当初計画した調査対象地のすべてについて調査を実施することができ、そのうち半数以上で、複数回の調査を行い、時間的経過による住宅復興の変化や充実の程度、住民の意識などを把握することができている。

4. 今後の研究の推進方策

第1の課題は、残された期間内に当初の建設以降の時間的経過による変化をまだ調査し得ていない対象地について調査することである。ケボンアグン、クレロハルジョなどについて継続的調査を行う。

第2に、日本国内や他の外国の災害における住宅復興の手法との比較を通じて、ジャワ島中部地震の住宅復興のもつ意義を明らかにすることが重要と考えられる。この点については、別途、中国四川大地震の住宅復興の研究を行なっており、それとの比較が必要である。また2011年度にハリケーンカトリーナ災害の住宅復興を調査し、一定の資料を収集している。さらに、東日本大震災の重タウ復興との比較が今後必要と思われる。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者に

は下線)

[雑誌論文] (計2件)

- ① エドワード・パンデラキ、塩崎賢明、Core houses adjustments and its typologies during the dwelling process、日本建築学会計画系論文集、No. 660、295-304、2011、査読有
- ② 塩崎賢明、住宅とコミュニティを重視した災害復興を、都市問題、第100巻12号、79-85、2009、査読無

[学会発表] (計0件)

[図書] (計2件)

- ① 塩崎賢明、「住宅復興とコミュニティ」2009、274P
- ② 塩崎賢明、西川栄一、出口俊一、「大震災15年と復興の備え」2010、131P

[その他]